

鶴見区区政会議 平成30年度第2回防災・防犯部会

1 日時

平成30年10月16日（火） 19時00分～20時53分

2 場所

鶴見区役所 4階 402会議室

3 出席者

（委員）

田中部会長、西口副部長、内野委員、岡出委員、宮本委員、松原委員
早野委員、西村委員

（区役所）

河村区長、野村副区長、嶋原市民協働課長、尾崎市民協働課長代理、
奥本政策推進担当課長、前田市民協働課担当係長、黒田市民協働課担当係長

4 議題

1. 区政会議における意見への対応状況
2. 平成31年度鶴見区運営方針のたたき台について。
3. 鶴見区区政会議委員評価シート（結果）
4. 区政会議に関するアンケート（結果）
5. その他

5 議事

開会 18時58分

○前田市民協働課担当係長 こんばんは。お忙しい中、お集まりいただきまして、
ありがとうございます。ただいまから鶴見区区政会議、平成30年度第2回防災・防
犯部会を開会いたします。

私は、本日の司会を務めさせていただきます市民協働課担当係長の前田でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして河村区長からご挨拶申し上げます。

○河村区長　皆さんこんばんは。今日も遅い時間お忙しいところありがとうございます。

今日は平成31年度の運営方針の策定に向けて、皆様方のいろいろ貴重なご意見承りたく思いますので、よろしくお願いいたします。

○前田市民協働課担当係長　それでは早速ですが、これより議事進行を田中部会長にお願いいたします。それでは部会長、よろしくお願いいたします。

○田中部会長　こんばんは。部会長の田中です。皆さんお忙しいところ、どうもありがとうございます。

お話にもありましたように、今日は31年度の施策についてのことが中心になると思うんですが、いろいろ資料を用意していただきましたので、それに沿って進めて参りたいと思います。

時間も7時から始まりまして、皆さんを遅くまであまり引っ張ることはできませんので、議事を円滑に進めていきたいと思っております。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは1つ目の議題ですね、早速ですけれど議題（1）の区政会議における意見への対応状況について、事務局から説明をお願いいたします。

○前田市民協働課担当係長　それでは9月3日に開催されました第1回全体会での主なご意見と区の対応等についてご説明いたします。

なお、時間の都合上、防災・防犯部会が所管する主な意見等について、そこをピックアップしてご説明させていただきたいと思っております。

まず米島委員からいただいたご意見ですが、「地域の避難所開設訓練とは別に、各町会ごとの防災訓練を実施している。実際に地震が発生したときに連合に防災リーダー

一が2名、そのほか5人ぐらいが各町会からとられて町会が手薄になると思うが、どう考えているか聞きたいと思う」というご意見に対する対応方針といたしましては、資料（1）のナンバー11でございます。

対応方針といたしましては、有事に備えて小学校等での避難所開設及び運営、また各町会での災害対応などおのおのの役割分担を決める必要がございます、そのため各地域での地区防災計画の策定に早急に取り組むことが求められております。区としても積極的に支援して参ります。

次に、12番の山口委員からのご意見でございます。「同報系防災無線のスピーカーが聞こえにくいとの話があり地活協以外の問い合わせの窓口があればよいと思った。また、台風時に情報を得るためのアクセス先を教えて欲しい」というご意見に対しましては、同報系無線のスピーカーについての問い合わせ先は、区役所市民協働課の防災担当でございます。またアクセス先といたしましては大阪市危機管理室のホームページや鶴見区役所のホームページを開いてもらうと、警報等、災害の情報が得られます。また、危機管理室や鶴見区役所のツイッター等で情報発信をしていますので、ご活用いただきますようお願いいたします。

また全体会でのそのほかの主な意見等につきましては、後ほどご覧いただけますでしょうか。説明は以上でございます。

○田中部会長 今のご説明についてですね、何かご意見とか聞きたいなということがございますでしょうか。

特にないようでしたら、それでは次の議題に進みたいと思います。議題（2）ですね。平成31年度鶴見区運営方針のたたき台について、事務局から説明をお願いします。

○前田市民協働課担当係長 それでは、まず初めに運営方針について簡単にご説明いたします。

○田中部会長 資料はどれ見たらいい。

○前田市民協働課担当係長 資料2でございます。先日、郵送で送らせていただきました円グラフが入っております資料でございます。

初めに運営方針について、簡単にご説明を申し上げます。

運営方針とは、区役所が1年間重点的に取り組む項目を示しているものであり、区役所が行う全ての取組みを記載しているわけではございません。また9月に実施いたしました全体会では運営方針そのものをお渡しいたしましたのですが、本日はそれを簡単にまとめました概要版をお配りしておりますので後ほどご覧ください。それでは資料2に沿って31年度の運営方針のたたき台について、最初に防災について私からご説明いたしたいと思っております。

それでは資料2の「安全なまちづくり（防災）」をご覧くださいませでしょうか。めざす状態といたしましては誰もが日ごろから高い防災意識を持ち、災害への備えが整っていることをめざしております。また区の現状といたしましては、鶴見区地域防災計画は区のホームページに掲載されておりますが、読んだことがあるという区民の割合が約28%と低く、周知が行き届いておりません。また区役所、地域が行うさまざまな取組みイベントについての参加者が固定化しておりまして、効果的な周知ができておりません。

区内の12地域で実施されております、さまざまな防災の取組みに実施規模や参加団体の違いがございます。

なお、後ほどご意見を頂戴したいのですが、このアンケートの項目につきまして平成31年度につきましては毎年「広報つるみ」の8月号で防災特集をしておりますが、防災マップをその中に掲載しております。その防災マップを自宅に貼っておられる方の割合をお聞きする、また例えば、大阪市が作成しております水害ハザードマップを用いまして区内の浸水危険箇所の把握ができている区民の割合とかに変更するなどし、具体的な対策につなげていくこととしたいと思っております。

続きまして、次のページを見ていただけますでしょうか。鶴見区の防災力を強化するための課題と課題に対する取組みを、最初に自助共助の観点からご説明いたします。課題といたしましては本来なら自分の身は自分で守る、また自分たちのまちは自分たちで守る、という意識を持って自発的に防災の取組みを行うことが大事ですが、先ほど区の現状でも申しあげましたが、地域の防災訓練などに参加される方が大体いつも同じということが見受けられますことから、新たな参加者に来ていただけるように工夫をすることが必要でございます。

2点目の課題といたしましては、大災害時に区役所に設置されます区災害対策本部と地域に設置されます地域災害対策本部との連携強化を行い、防災力を高めていく必要がございます。

3点目といたしまして、発災時には災害に対する活動の大きな担い手として期待されます中高生への訓練等への参加機会をつくるということでございます。そこでそれらの課題に対する取組みをご紹介したいと思っております。自分たちのまちは自分たちで守るために、地域の自主防災力強化を図るために地域と区役所、関係機関や学校等が連携して訓練を行って参ります。具体的には、防災訓練を実施いたします12地域のうち、区役所や大阪市危機管理室などが実施に向けたアドバイスをを行い、今年度は6地域で避難所開設運営訓練を実施し、今後も継続したサポートを行って平成31年度は区内の全地域で実施をめざして参ります。

次に安全安心フェスタでございますが、今年度は今月の21日、日曜日に鶴見緑地のハナミズキホールと附属展示場で開催いたします。お手元に本日の資料といたしましてチラシをお配りしておりますのでまたご参照ください。今年度は初めて城北環境事業センターに参加してもらいまして、台風の後に問い合わせが多数ございました災害ごみの捨て方に関することなどを行うほか、小さなお子様に人気の白バイや消防車、ごみ収集車などの展示も行いまして子育て層に来場していただくことで、防災事業を知らない方が多かった20歳代30歳代の方に防災の取組みを知ってもらえるように

いたしたいと思っております、これらの広報につきましては各小学校でPRするほか区内の商業施設へのポスター掲示を行っております。

また31年度につきましては消防署の開放デーを同日開催するなどし、参加される方が固定化されることのないような工夫を行って参ります。

地域防災リーダーの技術力向上につながる「つるみんピック」につきましては、今年度も3月17日、日曜日に実施する予定で31年度も継続して実施いたします。例えば女性防火クラブの方や、さまざまな方に参加いただけるよう鶴見消防署と工夫して参ります。

小中学生を対象とした防災学習会も本年度は既に小学校で3校、中学校で2校を実施しております、今後も実施予定でございます。31年度も継続した取組みを行って参ります。また昨年度に引き続きまして、鶴見商業高校での防災学習会を今年度も実施いたします。31年度も継続して行って参ります。

各地区防災計画につきましては現在3地域で完成しておりますが、地域災害対策本部や避難所運営委員会のメンバー策定を先ほどの避難所開設運営訓練を行った6地域で行いました。これらの名簿なども含めまして今年度は6地域で作成を行いまして、31年度は残る6地域での作成をめざして参ります。

次に防災士の資格取得の勧奨につきましては、地域防災連絡会や地域の防災会議などで引き続き行って参ります。

災害時地域貢献協力事業所の地域訓練への参加に向けた説明については、地域へどんな参加の方法があるかを含めまして情報共有を行っているところでございますが、訓練自体が日曜日の開催であることから今のところ実現しておりません。31年度も引き続き取り組んで参ります。また今年度避難所開設運営訓練を実施する予定の地域の情報は、地域防災連絡会の場でお知らせし参加希望される地域には詳細をお伝えしているところでございます。

それでは次に公助のご説明をさせていただきたいと思っております。公助の課題といたしましては、災害時に備えた防災資機材の充実が必要、区が行う取組みについての情報発信の強化が必要、自助共助でもございましたが区全体の防災力強化を図るために区災害対策本部と地域災害対策本部との連携強化に努める必要がございます。これらの課題に対する取組みといたしまして、災害時に備えた防災資機材の整備や災害時の体制を強化するとともに区が行う防災への取組みについての情報発信を強化して参ります。

具体的には災害に備えた備蓄資機材の確保を行って参ります。今年度はトランシーバーを各地域に2台増備を行うことで合計4台のトランシーバーを使いまして、地域での被害状況の把握に努めていただきまして、区本部との被害情報などの情報連絡を密にするなど、さらなる連携強化を図ります。31年度につきましても、機能強化を行うべく予算要求をして参ります。また災害発生時の区職員の動きを確認するために、継続した研修や訓練を行って参ります。次に災害時の通信手段についての広報ですが、例えば大規模災害時にはLINEなどのSNSが有効で、積極的に活用していくことを地域の防災学習会などの場でお伝えするとともに、災害情報を伝える手段の広報につきましましては、小学校などに設置されております防災無線のスピーカーが聞き取りにくいという意見に対しまして「広報つるみ」8月号の防災特集で放送内容が確認できる電話番号を掲載させていただきました。

また地域の防災会議などでは、市や区のホームページに掲載されます避難所開設に関するお知らせや、例えばNHKのデータ放送で防災情報が確認できることなどをお伝えしております。区地域防災計画につきましてもホームページなどで情報発信の強化を続けて行います。

LINEにつきましましては区災害対策本部内の連絡手段といたしまして、グループLINEを設定するなどして実際に活用しております。今後は、職員の食料や水の備蓄を行うよう伝えておりましたが、再度自分自身で備えを行うように周知を図って参

りますとともに、区役所での泊まり勤務に対応する寝袋の購入などの整備も行って参ります。

以上で防災の取組みについての説明を終わらせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○田中部会長 どうもありがとうございました。今、前田係長から防災についての説明がございましたが、30年度の取組みと、それから31年度へ向けて取り組んでいく方向、方針の説明があったわけですが、どうですか皆さん。何かご意見ございますか。

はい、宮本委員。

○宮本委員 ちょうど今年台風24号が発生、接近のときに、21号で非常に大きな被害が出たので避難所開設ということをやられました。ところが、SNSとかいろいろな形で発信されてたとは思いますが、防災リーダーに連絡がなかった。私どもの地域ではまだ避難所開設したことはなかったんでええ機会やったんで、そのときにそういう連絡を取って、実際にそれに参加して体験させていただいたらどうやったのかなと。通信手段のSNS、まあ高齢者はほとんどそういう通信手段を見てないと思うんですね。私自身もSNS、LINEはやってますけど若い人みたいにしょっちゅう見ないですね。だから避難所開設したのも知らなかったですね。後ほどわかったことなんです。

もう1つトランシーバーの話があって、これ前回もちょっとお願いしていたんですけども、今回もちょうど避難所開設の件で私ども防災部長からトランシーバーで連絡が入ったんですけども、たまたま私もトランシーバー1台持たされてるんですけども、ちょうど公園の方へ行ってたんです。そのときはトランシーバー持たずに行ってますからね、通常ではね。それでリーダーからトランシーバーで連絡が来てたんですけども、連絡がつかないということで結果的には携帯電話で連絡しあった。だからトランシーバーも大事ですけども、トランシーバーをしょっちゅう持ってないと

連絡取れないし、肝心の公民館と区役所との間はM C A無線ですんでね、公民館に入ったら情報はトランシーバーへはいかない。だからその辺の通信網についてもう1回、方法を考えていただきたいなと思います。今回の24号の避難所開設でそういうことを感じました。それをぜひ31年度の課題に入れていただきたいなと思っております。

○前田市民協働課担当係長 ありがとうございます。台風24号の折に避難所の開設をして参って、ご協力いただいております。ありがとうございました。

1点訂正と言いますか、今回自主避難所の開設についてということで、特に地域防災リーダーさん等、何かお手伝いをしていただくということがございましたのでご連絡を入れていなかったんですが、連長さんのほうには報告を入れさせていたできまして、何時から避難所を小学校、中学校で開設して参りますということを連絡を入れさせていただいております。あくまでも情報提供でございましたので、今後、もし実際に災害時避難所として学校の避難所を開設する場合には、いろいろやっていただきたいこともございますので、またご協力いただけるようなことがありましたらお願いして参りたいと思っておりますので、今回は自主避難所という形でしたので特に防災リーダーさんまではご連絡は入れておりませんでした。

○宮本委員 ただ、防災リーダーがね、日ごろ消火訓練とかいろんな形の訓練を受けてるんですけどもね、いざそういうときに防災リーダーで何やったんかなというような私も気がしましたんでね、何も全く知らない。周囲から入ってきて初めて知ってね、もちろん防災リーダーやから、一応避難所に行きましたけどね。行って担当者に聞いたけれども、どういう状態かはっきりわからないと言うことで、もし自分の地域の方が避難されてきたらやっぱり不安だろうからということで駆けつけたんですけども、できたらそういう機会に防災リーダー、せっかく日ごろ訓練を受けてるのに、いざというときに何の連絡もなし、何の役目かなということになりますんでね。

○前田市民協働課担当係長 あまりこちらからお電話すると、逆にちょっと気を使われるというか特に本当、自主避難所の開設でしたので今回はちょっと連絡は。

○宮本委員　　今までそういう避難所の開設は関わったことないんで、いい機会やったんでね、そこへ参加できたらよかったなという気がしました。

○前田市民協働課担当係長　　わかりました。今後そういう機会がなければ一番いいんですけれども、もしあればまた。

○西口副部長　　いいですか。この前、避難所開設にあたってうち14名ほど避難されて来られたんですけれどもね、過半数の方がその情報源として自家発電式のラジオを持ってきて聞いているんですけれども、電波状態が悪くていちいち向きを変えないとわからないという状況が発生しましてね、鶴見南小学校では。それをちょっと扉を開けたり窓側に持って行ったりということをしたんですけれども、避難者の方々が一応持ってきてはおるんですけれども、1台だけやったらそのラジオが調子悪いのかなということもあり得るんですが、ほとんどの14名中6名の方が持ってこられて、もちろん私も持っていったんですけれども、何かガーガーピーピーで入らない。ラジオの質が悪いのか、アンテナ状況が悪いのか。でも6台ともそういうことが起こってしまうということなので、そこら辺をちょっと対策をしていただきたい。当然電気も止まるだろうし携帯電話もままならない状態の中で、唯一の情報源としてラジオを活かし自家発電をする中でのアンテナの状況を確認していただきたい。SNSのLINEが当然のことながら、前々から有利とされておりますが、それはやはり各小学校に自家発電装置か何か設けていただいたら、非常に助かるんじゃないかと思うんです。またそれも検討してみてください。

○前田市民協働課担当係長　　自家発電機なんですけれど、各避難所に1台、区から配備させていただいておりまして、これはガスコンロ式になっております。

○田中部会長　　ガスボンベ式ですね

○前田市民協働課担当係長　　すみません。ガスコンロに使うカセット式のガスボンベを2本使用しまして、大体フル使用で1時間ぐらいしかもたないんですけれども、各1台ずつ配備しております。これにつきましては恐らく防災リーダーさんは資機材

庫を見ていただいておりますので、ご存じと思います。各地域にもよりますけれども、ふだんからお祭りのときに使っていたりしている地域もございまして、先ほどのトランシーバーもそうなんですけれども、特に防災用で購入いたしましたけれども、ふだんから使うのに慣れていただく意味で、いろんな場面で使っていただくようお願いしております、もし今後もそういった機会があれば、どんどん使っていただきたいと思っております。ただガスボンベは購入時にご説明をさせていただいているんですけれども、地域の方でご準備をお願いしております、備蓄をお願いしたいと思っております。

また来年度、性能がいい手回し式のラジオの購入を検討しております、まだちょっと予算の関係もありますけれども、一応項目としては出したいと考えております。ただ、今言われたような電波状態が悪ければどんなラジオでもきっと聞こえにくいという可能性がございます。ただ、建物が体育館とか頑丈なところで、高い建物とかの間にある場所っていうことであれば、やはり電波状態が悪いのではないかと。窓際とか行っていただいたら電波は通じると思うんですが、この前の台風のような風が強いときには何が飛んでくるかわかりませんし、ガラスを突き破って飛来物があるかもわかりわかりませんので、できるだけ窓からは離れていただきたいというところでございます。SNSとかを活用しながら情報を取っていただくのが有効だと思っておりますので、その辺でまたよろしく願いしたいと思っております。

○田中部会長 宮本委員、先ほど言われたトランシーバーとMCA無線、そういうものの連携ですか、再考していただけたらということですかね。

○宮本委員 そうですね。

○前田市民協働課担当係長 この電波も種類がMCA無線とこのトランシーバーと全然ちょっと性質が違う関係で互換性が全然なくて、これも地域防災連絡会の場では皆さんにお伝えしていたところではございますが、あくまでもトランシーバーは地域内での情報の交換のやり取りとして使っていただき、それを地域本部に情報を集め

ていただきまして、区本部との間ではMCA無線を使っていただくという、この2段でやっていただきたいと思います。MCA無線も大阪市の危機管理室が揃えているわけなんですけれども、予算の都合等もあるかもわかりませんが、今後、区にまた増備する予定は現在のところございません。とりあえず地域の中での情報の収集につきましては合計4台になるトランシーバーで行っていただきたいと思います。それを活用しての訓練につきましても昨年度1月17日の訓練で、地域の防災リーダーの方にもお願いして実施して参ったところでございます。

○宮本委員 増設していただければ、公民館がメインになりますので、公民館にそのトランシーバーを1台置いて、区からの情報はMCAで受け、そのまま横に置いているトランシーバーで各リーダーに連絡しあうということを考えているんですけれども、そうするとトランシーバー同士ですと役所との連絡が取れないですから、だから公民館へ増設してもらった分を1台おく。そういう運用のルールについて決めていただいたらどうかなと思うんですけれども。

○前田市民協働課担当係長 地域防災連絡会の場では、そういう使い方をしてくださいということで流させていただきます。

○田中部会長 台風21号で大変な被害があったわけなんですけれども24号もほぼ同じコースをたどってきたんで、それなりに身構えをしてたけど、南の方を通った。和歌山の方は皆さん大変だったと思うんですけれども。だから前田さん、ご遠慮なさらずに防災リーダーに連絡してなかったとかそういうお話ですけど、この際やっぱりほんまに来るかわかりませんので、24号も同じコースをたどるかもわからなかったということなんで、私は聞いとって思うんだけど、やっぱり連絡網。そういうのをもう一度再考していただく。誰にどういうふうな形で、どこまで流すかということも、ちゃんと作っておくとかマニュアル化しておく。例えば同じコースやったら最悪になりますから、これ頼みますよということをつく言わないといけませんよね、連絡網もしっかりしたものにしておかないと。だけど南の方にそれた。それは直撃され

ませんのでそのときは解除と言いますか、こういうふうなことでこういう範囲に解除します、ということも含めて連絡網をつくっておくのが大事なように思うんですけども、どうでしょうか。

今の無線の話は、やっぱり肝心のとき使えなければ意味がない。その使い勝手がいいようにやっぱり工夫していく。そういうことが大事なような気はするんですよ。そういう観点から考えていただくと。これ予算もありますしね、だから扱える人も限られてるし、なかなか難しい面はあると思うんだけど、その辺いい教訓にしてね、次に活かしていただけたらと思います。

○前田市民協働課担当係長 はい、わかりました。

○田中部会長 そのほか何かございましたら。

○岡出委員 台風21号があって台風24号が来ましたよね。24号のときうちの地域どうもなかったんですけど、隣の茨田地域の人が何か、うちの小学校に避難してきはったような話をあとから聞いたんですけどもね、こちらは何の準備もしてなかったから対応が全然取れなかったということを知って。あとは詳細はわからへんですけど、何せ向こうの地域は、うちの小学校の方が近い。だからどれだけの人が災害にあったときに避難してくるかという情報も、茨田南の地域に伝えていただけたらな。どの辺の範囲の人までがこっち来はるんか。今でも、すごい人数で地域内のみんなが逃げてきはったらどないもならへんような状況にあるのに、さらにプラスアルファになればとんでもないことになると思うんですけども。

○前田市民協働課担当係長 そうですね。南海トラフ、上町断層帯の地震の場合は想定される避難者数というのは出てるんですけども、その今回のような・・・。

○岡出委員 その避難者数はどうなんですか。小学校の区域がそこに逃げてくるとしての人数なんですかね。というのは地域外の人が来はったときなんですよ。

○前田市民協働課担当係長 そうですね、小学校区で算定しております。

○岡出委員 絶対それでは足らへんと思いますけどね。

○前田市民協働課担当係長　これも一応、危機管理室がその小学校区をもとに計算した数は出てるんです。ただ今回のような台風の場合で、水害とか風害でどれくらいの方が避難してくるという想定は申しわけないんですが今のところ想定されておられません。基本、その町会がどこへ避難というのは、地域のほうで、俺らの地域はどこの学校へ行こかというのは話し合っただけで決めていただければいいかなとは思いますが、でも。

○田中部会長　それではよろしいか、ほか。

○内野委員　自助共助のところの下から2つ目のところになります。個々の災害時地域貢献協力事業所の情報を地域と共有し、協力事業所に訓練参加を呼びかける。これは具体的にはぜひ実施していただきたいと思うんですけれども、例えば、協力する事業所の建物そのものが何階建てであるとか、どれだけの広さをもっているとか、それから耐震もそうですけれども、例えばですけどハザードマップに対して私どもの地域で申しあげたら国道163号が北側にございます。その向こうに緑4丁目というものがあります。緑4丁目のところは随分ずっと下がって低い。例えば、そこは申しわけないですけれども随分古い建物も多くて、暴風とか豪雨とか地震、それによって避難も例えば小学校に避難路とかあったとしてもそこにたどり着けるようなルートというのはちゃんと評価させてもらわないと、単純にそこに行けというだけではなかなか厳しいところがある。特に4丁目から緑小学校に行こうとしましたら、あいだに交差点がありますけれども、あそこが1番低くて、私のところの門からあちらの交差点に行くのにも、自転車で1回こぐとそのままずっと行きます、というぐらいの坂になっているんですね。私のところの東門のところはハザードマップでは全く水が来なくて境内地の中の広い広場がありますけれども、そこも現実的には水が来ません。ということからして万が一の場合は、例えば小学校をめざしつつも一時的な避難所として、例えば事業所のところであるとか、そういうような情報があるといいのかなと思います。鶴見区ではないですけれども隣の旭区で私どものほうも運動場がありますので、そこ

のところの町会の方と打ち合わせをさせてもらいましたときに、今のような避難をされようとしたときに避難所の小学校に行こうとしました。避難所のふちに入り口がありました。でもそこは常時防犯のために鍵がかかって入れなかった。仕方ないので遠回りをしようとしたけど遠回りするのに大変だったということで、私どもの道場の間口は開けてもらえないかという申し出がありました。そんなふうにしてその協力事業所がそこにあるというだけではなくて、ここはどういうことができるかということを経験した人と共有させてもらったり、訓練参加のときも、お互いその情報を共有できるとかされたらと思いますね。協力事業所は小学校に行くまでの間に1つの大きな避難のポテンシャルがあるといいと思います。そういうところも考えていただければと思います。万が一のことがあったら救援物資とかそういうのは避難所には届きますけども、そういう情報が入っていなければそういう事業所、そういうところに避難している人たちは置いてきぼりになるわけですので、共有されていけば避難の物資でも届けられるかなと思いますのでよろしくお願いします。

○前田市民協働課担当係長 内野委員からいただいたご意見でございますが、金剛寺さんは実際に2階の道場は広いということでお申し出をいただいておりますがとうございます。協力事業所さんなんですけれども、例えば、会社でビルとかお持ちのところがございます、そういうお話をしていったこともございますが、やっぱりその会社のビルに一般の方が入っていただくのはやめて欲しいというところがございまして。

○内野委員 だから協力できるところを協議するということですね。

○前田市民協働課担当係長 そうです。そこはまた掘り起こしといいますか、もう一度そういったことが可能かどうか確認させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

○田中部会長 はい。

○宮本委員　先ほどの続きになるんですけど、避難所の収容人員ですね。私ども心配しているんですけども、町会に加入しているのは大体2,200世帯。もう加入率から言うと半分ぐらいが加入していないかな。そこへ平均世帯人員をかけていくと1つの小学校に収容する人数が膨大な数なんです、5,000人。1つの小学校へ全員避難したとしてとすれば入れない。そういうようなケースに民間のそういう避難所も含めて、こういう人数が来た場合は、どこどこを使うか。小学校だけだと、恐らく限定されると思うんです。だからそういうことを考えてくると、恐ろしいと思った人が押し寄せた場合は、小学校に入りきれない。講堂にそんな5,000人も入れません。そういうことも想定して、災害は今、多発していますから非常に心配なんですけれども、そういうことを含めて検討すべきでないかと思っております。

○前田市民協働課担当係長　避難される方ですけども、全ての方が避難されるわけではございません。丈夫なお家、マンションとか鉄筋コンクリートの建物におられる方、市営住宅とかですね、お家が無事であれば学校に行かずに在宅避難というかたちで自宅で留まっていただくという避難の方法がございます。今これと、上町の想定で鶴見校区では避難者数の想定は286名となっております、ただ罹災される方は865名でそのうち286名の方が鶴見小学校で避難所生活を送られるという想定でございます。もちろん発災直後はもっとたくさんの方が運動場とかに逃げて来られるかと思っておりますけれども、全ての方が避難所生活になるわけではございませんので、お家が無事で確認ができれば在宅避難ということも考えていただければなと思っております。

○西村委員　こないだの避難でも、高齢者の方が来られて風にあおられてかえって危ないなというのがありましたので、その災害の種類、程度によって自宅におってもらうことも周知した方が。何でもかんでも避難所に来たらってというのは、僕は間違いではないかなと思います。水害の場合とか今度の台風の場合とかそれぞれのケースに

よって、避難する時期、タイミングが違うと思います。そういうことをこないだふらふらになって来られましたんで、感じました。

○前田市民協働課担当係長 ありがとうございます。台風21号のときだったんですけども、一番風が強いときに、区役所に何件も怖いから避難所に行きたいけど避難所はどこという問い合わせがございましたので、今は1番風が強いのでかえって出ると危ないですと周知をさせていただきまして、ちょっと我慢をしてお家に留まっておいてくださいということを。結構問い合わせが多くございまして、今後やっぱり周知といたしますか、早めの避難ということで、もし先ほどのご意見もありましたけれども風が強くなる前、雨が強くなる前に避難所に逃げていただけるような方法をもっと周知していかなければならないと思っております。

今回、台風24号で避難所を開設したときには消防署の広報車が3台、台風が近づいているので気をつけてくださいということと、避難所を開けているという情報を鶴見区内に回っていただきました。各地域である一定の時間止まってそれを放送してもらったということもございまして、聞いていただいていた方もおられたかなとは思っています。

○西口副部長 実は私のところの家に避難所開設にあたって最初の時間帯が昼の12時ですか、まず一報が入ったのが。当日が9時になったんですけども早ければいいのかってことで、実は私どもの家の方に何時から避難所が空いてますかという連絡が随分入りました。12時からですということと言ったんですけどそれまで大丈夫ですかと。大丈夫かどうか私もわかりませんので、私もその地域に住んでいる住民としては何とも言えません。ただ前日の連絡では12時ですのでよろしくお願いたいと。当日9時というのは何の時点でわかったのか、ちょっと定かではないんですけども、それを聞いてそれ以上電話なくて一応12時まで我慢したっていう電話があったんですけども、今かえって混乱を来すから電話の相手には言わないというのはあったん

ですよ、風もきつかったですから。その12時であるとか9時っていうのはどの範囲内で決定されているのか、それをちょっと教えていただきたいです。

○前田市民協働課担当係長 最初、確かに台風が来るっていうことで9月30日の12時をもって開設すると広報させていただいて、それは台風の進路の情報とかいろいろとって12時に開設ということを決めさせていただいていたところなんですけれども、吉村市長がツイッターで市民の方を心配されてもっと早めに開設しますということを発信されましたことを受けて、鶴見区といたしましても3時間早めまして9時から開設ということで、急遽変更させていただきましてご迷惑をおかけしたところがあると思うんですけれども、一応予想進路というのが開設の読みどころとか、もともになった情報でございます。

○田中部会長 議論盛り上がっていますけど、時間もございますんで何か最後になりましたらお受けしたいと思います。この防災の意見で何かございますでしょうか。

災害はいろんな災害があります。今度は台風でしたけど、地震もあるし、その他の災害、火事とかいろんなものがあるかもわかりません。だから災害列島日本で、ありとあらゆる災害が起こると思います。先ほどの話と違うんですけれども、先ほど12地区で避難所開設、それは恐らくある災害を想定して、避難所開設をされると思うんです。今私が申しあげましたように、いろんな災害があります。だから私はまずお願いしておきたいのは先ほどからお話があるように指示系統というんですか、それをまずしっかりとその12地区ですか、そのときにどういう災害のときはどういう流し方するか、もういっぺん検討していただきたい。

あと解除のやり方もあります。12時に災害本部が避難所を開設するという方針を出したんですよね。それを市長がぼっと3時間も早める。それもまあちょっとむだなと思うんですけれども、それはそれでいいんかもわかりませんが、災害の内容によって。でもそれは、12時にやってるのを変更するわけですから、やっぱり大阪市として、しっかりと反省とか問題課題として提起しておいて欲しいと思います。

それから指示系統、いろんな災害があり、1つじゃないということで、いろんな災害想定するのは費用と時間がかかります。だから机上訓練みたいなもので済ましたらどうですか。机上訓練は昔の軍隊が机上で作戦会議やります。で、戦艦がこう来たらこうやとかね、想定して何人かでこうやりますよね。そういう会議ですむわけですよ。それは重要なことだと思うんですね。そういう机上でやってみるとか。

○西口副部長 かつてはDIGもやりましたよ。

○前田市民協働課担当係長 DIGとか、あとはHUGという避難所運営ゲームがございまして、実は今日、今まさしくある地域でHUGの訓練をやっている地域がございまして、防災担当がそちらに行っているんですけども、HUGっていうのは避難所運営ゲームという名前のおり、いろんな想定のカードをもとにこの人はどういうふうはこの避難所でどこにおってもらおうとかいうふうにやっていくゲームですけど、確かにこのHUGとか図上でやるっていうのも大事なかなと思っておりますので、今後それにつきましても検討します。

○田中部会長 いろいろ我々意見申しあげて申しわけないんですけど、お願いしたいと思います。

○前田市民協働課担当係長 わかりました。

○田中部会長 それでは、時間が迫ってまして、次の防犯の説明を。

○黒田市民協働課担当係長 それでは次に防犯対策について私から、続いて交通安全対策については前田からご説明し、意見の交換をお願いしたいと思っております。

資料は先ほどの資料2と書いてあるものの2枚めくっていただいた安全なまちづくり、防犯という資料がお手元にあるかと思えますけれども、それに沿ってご説明させていただきます。防犯、交通安全における共通のめざす状態ですが、大きな目標である犯罪や交通事故のない誰もが安全安心に暮らせるまちになっているという状態をめざしているところでございます。そのような状態をめざしている中、区の現状としま

して平成30年7月末現在ではありますが街頭犯罪件数は383件で平成29年の同月現在では441件であり約15%減少しております。

しかしながら街頭犯罪7つの手口のうち自動車盗だけが平成29年の5件に対して、平成30年は20件で増加しているところでございます。また、グラフの左下にもありますとおり、依然として街頭犯罪の半数以上を自転車盗が占めているところでございます。

次に裏面の課題ですが、先ほどもご説明させていただきましたとおり街頭犯罪発生件数は減少しているものの街頭犯罪の半数以上を自転車盗が占めており、ひったくり、車上狙い、自動車盗などの街頭犯罪を未然に防ぐ取組みを推進し、引き続き街頭犯罪発生件数の減少を図っていく必要があると思っています。また区民の防犯意識の向上を図り犯罪を起こしにくい環境づくりが重要であると思っています。

次に具体的な取組みですが、区民一人一人の防犯意識の向上及び防犯環境整備によります街頭犯罪の減少をめざし、地域、関係機関と連携した防犯対策に取り組めます。具体的に平成25年度以降に、区が設置しました防犯カメラについて耐用年数は6年とされており、平成31年度以降順次取り替えを行って参りたいと考えております。また区内一斉防犯行動は平成24年度から毎月第4金曜日に各地域の防犯推進委員や青色防犯パトロール隊を中心に各種団体、警察などと連携して取り組んでおり、引き続き実施して参ります。自転車二重ロックキャンペーンですが自転車盗が街頭犯罪の半数以上を占めるため、引き続き区役所庁舎、玄関前にて月に1度26日、ツーロックの日なんですけれども、ティッシュペーパーを配布するなどして啓発に取り組んで参ります。

ひったくりについては月に一度、区内各所にて、自転車の前かごにひったくり防止カバー取り付けキャンペーンを行って参ります。また、前回の区政会議、第1回防災・防犯部会でのご意見にもありました各事業所、法人で設置されている防犯カメラの角度調整の協力依頼ですが、今月初めに区長、警察署長、鶴見防犯協会会長の3者

連名で鶴見区防犯協会に加入されている約80社の事業所、法人にお願いのため依頼状を送付したところでございます。現在半数程度の回答がありまして、そもそも防犯カメラを設置しないと回答が半数以上を占めております。また既に防犯カメラを公道側に向けていると回答や、今後、公道側に向けるといった非常に協力的な回答がありました。

次に同じく前回の区政会議でのご意見にもありました、防犯カメラ作動中のプレートの枚数の増や、抑止効果のあるプレートの色については、地域要望を鑑みながら取り組んで参りたいと考えております。防犯についての私からの説明は以上でございます。

続きまして、交通安全対策に係る説明について担当の前田からご説明申し上げます。

○前田市民協働課担当係長 では、よろしくお願いいたします。

まず区の現状といたしましては、街頭犯罪件数の半数以上を自転車盗が占めており、自転車を含めました交通マナーアップ、特に自転車利用者が課題となっております。交通状態別死傷者数を見ましても約3割の方が自転車に関わるものとなっております。

次のページでございまして、課題といたしましては自転車利用者のマナーアップについての取組みを継続して推し進めて参ります。具体的な取組みといたしましては、地域からの要望に応じて皆さんの集まる場所での研修でございますが、これにつきまして予定されていたところが今年度台風で中止となった結果、まだ今年度につきましては行っておりませんが、今後も警察と協働した取組みを引き続き行って参りたいと思っております。

また高校生への自転車マナーの啓発につきまして、鶴見警察署と協働した取組みを今年度は2回行って参ります。31年度も継続して行って参ります。地域、関係機関と協働した放置自転車への取組みは、鉄道3駅前でキャンペーンを継続して行って参ります。これにつきましては毎月第1木曜日が横堤駅、第2木曜日が今福鶴見駅で、月1回曜日は決まっておりますが放出駅で実施しております。地域の方にも多大な

るご協力をいただいております。

区内の駐輪場マップにつきましては、今年度も既に作成済みでございます。主に転入者へ配布を行っております。31年度につきましてもさらに新しい情報がございましたら更新して作成を行って参ります。

なおスケアードストレート方式によるスタントマンを活用しての交通安全教室につきましては今年度で終了いたしまして、今後は現在も配信中ではございますが「YouTube」での動画などにより、引き続いて交通安全啓発を行うことなどや、警察と協働いたしました各学校や地域での交通安全教室を実施して参ります。ちなみにこの分の予算で防災事業の増額分を賄いたいと思っております。

以上で交通安全への取組みについてのご説明を終わらせていただきます。

○田中部会長 ありがとうございます。今説明の防犯ですね、それから交通安全、説明があったわけですけど何かご意見ございませんか。はい。

○西口副部長 自転車盗難が多いですけども、その前に自転車の乗り方のマナーを何遍言うてもわかっていただけない。今朝も私、車に乗ってまして、赤でも平気で渡っている、信号が赤でも。結局はうちのと当たりかけたんで瞬時に避けたんですけども、原付免許とか自動車免許とか大型免許とか、普通の行政が発行している免許証というのがあるんですけども、それと同様に許可証はある程度の講習をしていただいて発行してそれに対して販売するという仕組みはとれないんですかね。マナーの問題で。

○前田市民協働課担当係長 自転車ですか

○西口副部長 はい。

○前田市民協働課担当係長 そこはちょっと。

○西口副部長 実際車両ですよ、自転車は車両区域の管轄が入りますよね

○前田市民協働課担当係長 そうですね、法律で何か乗ることに制限を設けたりということがございませんので。

○西口副部長 実際は車両と言う限りは、単車でも車でも免許証という形で講習を受けて発行してその方しか乗れないですよ。結局マナーをなんぼいうても結局その人に問うてもこれだけの事故があったり1億円以上の保障が生じたりということがやっぱりあります。最低限の信号を守るとか一旦停止をするとか、そういう軽いものでいわば講習をしていただいて許可証を発行して、その許可証を持って自転車を販売するという形はちょっとできないものかな。

○前田市民協働課担当係長 ちょっと困難かと思われませんが、赤信号を無視するというのは恐らく個人の資質の問題になってくるかなと。

○西口副部長 それはわかります。

○前田市民協働課担当係長 幼稚園の子でも赤はとまれ、黄色は注意、青は進んでもいいよというのを知っている中で、やっぱりその小さい子は恐らく信号を守っているかなとは思うんです。

○西口副部長 やっぱり親がやってれば守ってないです。

○前田市民協働課担当係長 小さい子ですよ。

○西口副部長 やっぱり親がそういうことをやっていけば、子どもも親の背中を見ますのでいずれやらなくなります。

○前田市民協働課担当係長 そうですね、その信号を守らないというのは本当にもう全ての方が守ってないわけじゃなくて、やはりきちんと守っておられる方は大半を占めておるのかなと。やはり信号を守らない方が少しおられたらやっぱりそこが目立ってきますので、大方の方は赤はとまれということで守っておられると思うんですが、本当に個人の資質の問題になってくるんじゃないかと思います。

○西口副部長 理屈ではやっぱり赤はとまれ、皆さん、それは知ってると思います。でもどれだけ危険かということをやっぴり感じていただきたい。周りを見ながら特に走っていないですし前しか見てないとかね、そういうことがやっぱりマナーなのか資質なのかといえ、両方絡んでいるような気はするんですけども。それも含めて

義務じゃないですけども、推進はできないのかな。義務というとなんか重たいことになりますので。それは当然みんながみんなそういうことをやってるんじゃないかと一部の方です。でも一部の方がそういうことをやっていれば、いずれその1億円の賠償をせなあかんということがよくマスコミに騒がれてますよね。少しでもとめる方法としてはそういうこともどうか、という感じです。

○前田市民協働課担当係長 今年度も先ほどもちょっとご説明させていただいたんですが、スタントマンを使った交通事故の模擬再現を行う交通安全教室を行います。これにつきましてもできるだけたくさんの方に見に来ていただきまして、交通事故にあったとき、こんなひどいことになるんやということを、実際に目で見ていただいて確認いただくというのはすごく有効な取組みだと思っております。今後もイベントにつきまして周知を区内の商業施設にポスターを貼るだとか、小学校、中学校にチラシをまいていくということで、なるべくたくさんの方にお越しいただけるような方法をとって参りたいと考えております。

○田中部会長 それは私もそうなんですよ、車に乗ってて非常に危ない思いもしています。でも区役所にできる力、できる範囲というか、これはもう国の問題やと思います。法律をつくっていかないと条例なりでそういう免許制にするとかね、なかなか次の問題があると思うんですけど。区役所としては、やっていただくスケアードですか。あれもなかなかびっくりします、迫力がある。でも今年はビデオでなされるんですよね。

○前田市民協働課担当係長 ことしは最後1回、今津公園のグラウンドで行いたいと思います。また区民の方が情報を取っていただくツールで1番有効な広報つるみ11月号で自転車のマナー向上のために紙面を取ってしまして、まだ11月号は発行になってないですけども、11月号の1面と2面でマナーアップにつきまして特集を組ませていただきたいと思います。皆さんに見ていただきまして1人でも多くの方、実際に今津公園に足を運んでいっていただけるような形をとらせていただきま

して、取組みを進めさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○岡出委員 いいですか、ただそうやって見に来てくれる人は大体守る人と思うんですよね。だからそれ以外の人をどうやってそこに集めるかというのが大事だと思う。それから広報つるみを出しますよと言うたって、見てない人の方が多いと違うかなと思うんですけどね。推測でしかないですけども。来る人は大体ふだんから守っていて、さらに怖い目にあいたくないから、見て勉強しておこうという向上心の表れではないかなと私は感じますけれど。

○前田市民協働課担当係長 実際アンケートでも、もちろん交通ルールを守る方がほぼ大半だとは思いますが、中にはそういった守らない方は先ほども言うように目立つのかなと。実際スクアードのときにアンケートをとって、今までそういったことを守っていなかったけども、これを見たから絶対に交通ルールを守るなど、そういった内容を書いていた方がおられます。あとはもう実際に本当に痛い目にあわないとわからないということでは遅いとは正直思うんですが、なかなかそういう方に対して有効な周知の方法はどういったものがあるのか、またもし知恵を拝借できるならこういうこともあるよとご意見等あればお伺いしたいと思います。

○松原委員 いいですか、先ほど広報に掲載するというをおっしゃっていただきましたけれども、赤信号を渡ってはいけないとか、スマホをしながら自転車に乗っちゃいけないということは、わかっているがらしているんだと思うんです。やっちゃいけないということだけではなくて、それをしたことによってどういったリスクがあるのか、自分が加害者になって、例えば他県さんの事例でも高校生の子が主婦の方をひいてしまって損害賠償請求されてこれだけの金額を払った事例がありますよというようなことを、ちょっと脅すわけではないんですけども、幾つかそういった事例も載せながら、駄目だよってということだけではなくてなぜ駄目なのか、もちろん交通ルールを守るということは大切なことだけれども、自分自身も加害者になるということの

可能性が高いということをもっとアピールできたらいいのかなと、ちょっと今お話を伺いながら感じたんです。先ほど免許のこととかもおっしゃってたんですけども、この啓発活動をせっかくなさっている子育て層とかいろいろなライフステージでされてると思いますので、どういった啓発活動をなさっているのかなというのはちょっと気になるんです。例えば子育て世代の方々に子ども向けだけではなくて保護者の方も子どもさんがこういうことをやったら保護者もこんなリスクがあるよとか、中学生ぐらいになるとだんだん理解をしてくれるようになると思うんですね。それぞれの年齢層にあった啓発活動をこういろいろ変えながら、もうされてるのかもしれないですけども、もう少しこう具体的に私たちにもわかるようにこんな内容をやってるんですけども、ただやってます、実施していますということではなくて、この教室ではこういうことをやってるんですということをもっと伺うことができれば逆に新たな意見など提案もできるのかなと感じました。

○前田市民協働課担当係長　子育て層の方ですけども、地域の子育てサロンの場をお借りいたしまして、例えば、つるりっぷに一緒に行ってもらいまして、小さい子どもさんがやっぱり喜ぶような方法と、あとは主にやはりお母さんに対して守らないといけないということを、来ておられる子どもさんは小さいお子さんなんで、交通安全教室というのはちょっと難しいので、主に来ておられるお母さん向けに自転車の乗り方とか紙芝居とかみたいなのを見せながらやっております。中学生につきましては、警察署とも一緒に行くんですけども、実際にいろんな事例を話しながらお巡りさんが標識の実物を持ってきて、これは何ですよと説明しながらやっております。高校生に対しましても、やはり同じような形で行っておりまして、警察とも協働して今年度行ったのは汎愛だったんですけども、警察は毎年3校の高校で行っておりまして、区役所と一緒に参加できたのは汎愛だけだったんですけども、いろんな事例をしゃべりながら、やはり今おっしゃっていただいたような自分も加害者になるんだというところも高校生に説明しながら交通安全教室を行っております。

○田中部会長　　よろしいですか

○松原委員　　はい、ありがとうございます

○宮本委員　　防犯カメラについてお尋ねします。防犯カメラもご存じのとおり犯罪の抑止力と、事故の後の犯人の検挙ということで効果があるということは周知のとおりですけれども、防犯カメラの設置の順序なんですね。例えば地域に何台つけていく。防犯を重きにするんだったら絶対にどこに設置するのが1番その地域を全部網羅して効果があるという考えで設置が進んでいるのか、それとも地域で声を大にした人が優先してつけているのか、今、設置されている状況からしたら一貫性がないような感じがします。1年に全て設置するわけにはいきませんので恐らく毎年何台ということだと思いますが、それを何台つけたら地域全体の防犯の抑止力になる台数なのかということを考えながら設置していただけたらと思います。交差点、交通事故だけを照準にした目的で設置する例とか、本当に犯罪を抑止しようということで、通学路とか人の多い通りに設置することが抑止の目的なんですけれども、今のところはそういう一貫性がないような気がしています。

それともう1つは設置後のメンテナンス、これを必ずするというで決まっているのかどうか。どうも私の所の地区を聞いたらメンテナンスをしてないような感じがします。一時アメリカ村で防犯カメラをつけたらその犯罪ががたっと減った。ところがメンテナンスが年間80万かかって財政が耐えられずもう取り外すということが、以前に新聞に載っていました。多分、鶴見区の中でもメンテナンスをしている地域としていない地域があると思いますが、故障していたら何の役にも立たない。せっかく高い金額を出して設置しているので、その辺をどうなっているのかお聞きしたい。

○黒田市民協働課担当係長　　防犯カメラの設置の計画でいいますと、予算には当然限りがございますので、1地域に大体2台で年間大体24台で、各地域ばらつきが無いよう各地域2台ずつという形でお示しさせていただいてまして、どこに設置したら効果的なのか、どれだけ設置したらそこが補えるのかということは、地域の方がどこ

につけたら1番効果があるとよくご存じだと思うので、地域の方をお願いしてここに設置が必要だということで、その要望を受けまして設置をしているところです。各地域どこまで設置すれば網羅しているかまでは知り得てはないですが、現在は設置の要望もありますし、必要なところに設置しているところでございます。

○宮本委員　その辺の必要性、地域全体の防犯全体を網羅するというのを目的にしないと、ただ付けているよ、ここへ何台か付けたよというだけで非常に高額な商品であり、あとメンテナンスをやっておられるところは非常にメンテナンス代が年間かかっていると思います。だからその辺をきっちりしないと、せっかく付けたけども故障して稼働していなかったという例も過去にあった。だからその辺をきちっと決めないと今、ただ台数を付けているという気がしてならない。

○田中部会長　今どうなんですか、その設置するときのインシヤルコストは区役所が持っていただく。メンテナンスは地域で持つんですよね。

○黒田市民協働課担当係長　公設置、地域管理という状態であり、設置する費用については区役所でさせていただいて、電気代とか管理の費用については地域の方に負担をいただいている。

○田中部会長　地域に任すなら、誰が見てくれるかということまで決めておかないといけない。役員は2年で交代するので引継ぎは防犯リーダーが責任を持ってしなければならない。一応それは我々の問題かもわからないけども決めておかないと、あんたらに渡したよ2台ずつ、それではちょっといけないと思う。やっぱり渡すときにはリーダーをちゃんと決めて責任を持ってやってくださいね、町会長に言うとかと連長に言うとかと。しっかりこう、しとかないと続いていかない。あるリーダーはしっかり言うてるけど、2年で終わったから次やらへんと。そうなってしまったらそのままになってしまうと思う。

○黒田市民協働課担当係長　引き継ぎはしやすいような形で、どこにこの年度は設置しましたというのを地図には落とし込んで、地域の皆様方にはお示ししているところ

ろなので、あとの引き継ぎの部分では地域でお願いしています。

○田中部会長　連長さんと町会長さんの問題かもわからない、メンテについては。高いお金のものをつけていただいたんだから本当に面倒見ていく、そういう気持ちはやっぱり大事かわかりませんね。

○宮本委員　私はもっと役所のほうでリーダーシップを握って、目的をはっきりしてね、これとこれとはやっぱりしなきゃいかんということを決めとかないと。ただ丸投げなんで、どこについとる、もうええかげんな失礼な言い方やけど、もうとにかく台数を丸投げしてあとは知らん。今の話でもやっぱり町会の役員は2年に1回改選がありますんでそれを引き継いでいてくれればいいですけど、やはり税金を使っているから、きちっと私はすべきと思います。今、付いてる状況を見ていたら一貫性がない。

○田中部会長　それともう1つ思ったのは12連合で2台ずつで24台、これはやっぱりまずいと思います。一見平等ですよ、そうやけど宮本委員がおっしゃったように危険度とかいろいろやっぱりあると思います。警察に行けばどこで事故がよく起こるんだとか、どこで泥棒に空き巣が入るんだとか、つかんでいると思います。そういうことも頭に入れて配置というのを考えていかないと。はい2台、はい2台、はい2台、それぞれの地域で付けると思うんだけど、むしろ各1台ずつにして12台。あとの12台はみんなでちょっと考えたらどうかな。役所を中心にしてもいいし、どこへ付けましょうかと、その辺の資料をちょっと集めてきて。だからそういう重点的な付け方も考えに入れられたほうが有効のような気はする。予算があれば30台買って2台ずつやったら24台ですから6台余る、6台分はこっちのリーダーシップでやると、そうしてもいいんですけど、予算というものがありますからね。それと今言われたメンテのルールづくりというのは、やっぱり必要ですね。機械ですから特に精密機械ですから故障します。メンテしなかったら止まったままになります。だからその辺はやっぱり注意してせっかく付けるのだから。

で、話は戻りますけど、もうこの話はこれでやらなあかんねんけど。やっぱり犯罪

がここ15年で3分の1になってるんです。認知件数という警察で出してますけど、そういうしっかりした統計が出てます、白書でね。だからその効果というのは大きく言って2つ言うとするわけですね、やっぱり防犯カメラが大きいと。それから各地域の防犯意識というか、町会長さんを初め回ってますわね、それからパトロールを回していただけてますよね、区役所のほうで。ああいう地道な努力によって犯罪の認知件数が減っている。別の犯罪は増えているんですけども、トータルとしては減っている。防犯カメラはものすごく大事な、宮本さんおっしゃったように抑止効果と犯罪の検挙とかにつながりますんで、大事に守っていく。あとは地域で努力して毎月何回どこそこへみんなでまわるとかやっていますからね、それはこっち側にまた振っていただいてこっちのほうで努力する。役所と一緒にですけど協働でやる。どうですかねこういうことで。

○黒田市民協働課担当係長　そうですね、メンテに関してですけども台数分ずっとメンテという形になるとこれは予算のことでちょっと申しわけないですが、多大な金額がかかってくる。故障したらすぐ直さないといけないとは思いますが、対応年数は6年なので、早々壊れるというのはなかなかないのかな。あとは操作の仕方によって壊れることも当然あるかとは思いますが、そのメンテ代を予算として計上するのはなかなか難しいです。

○田中部会長　そんなこと言うてない。メンテ代は役所持たなくていいです。地域で持てばいいんですよ、メンテ代はね。故障したら直すとかそういうのは地域の責任でやればいいと思います。だからやっぱりルールだけしっかりしとかないといけないということやと思います。誰がやっぱり見ていくんやということ、ちょっとみんなで見えを絞って、これはもう役所でできる問題やない。その地域と連携、そういう会議の中でこれは大事だ、抑止効果と犯罪検挙の効果があるんだと、だから皆さん一緒に考えましょうと。メンテについてですよ、その費用にしても役所はイニシャルのほうは持つけど、そういう継続的なものはちょっと持てないと、それははっきりしてお

いたらいいんですよ。それは別に構わないと思うんで。どうですか、私勝手にこんなことを言ってしまったけど。

○宮本委員 そのとおりです。

○西村委員 いや、カメラは素人が見てメンテができるものではないので、やっぱりそういう業者がいますんで、そういう方に見てもらわないと我々は全然わからない。犯罪があればよく警察が調べに来るんで、映ってなかったら警察がすぐわかる。そういうことで回しておくよりしょうがないんじゃないかな。下手にケースをあけて点検したって、それはうまくいかないと思います。

○宮本委員 メンテナンスは専門業者がやる、全部依頼です。

○西村委員 依頼するのと業者の数が僕はそんなにいてないと思います。

○田中部会長 だから私が言うのは1年に1回はそういう専門業者がチェックするというか、そういう仕組みというルールをつくっておけばいいと言ってるんです。そのときの費用負担はどっちがどうするかというのはありますけど。それはやっぱりチェックしないと精密機械ですからね、壊れてるかもわからない。

○西村委員 ところでモニターで、あのカメラの下に行ってモニターを差し込めば作動してるかどうかわかるんですよ。業者のモニターを持って行ってわかるんやから、それくらいのチェックはできる。映っているかどうかということはわかると思います。

○宮本委員 役所で各地域メンテナンスしてますかどうかと1回調べられたらどうですか。もししてない地域があれば、これはもう絶対メンテが必要なんで、故障したら、ただの箱です。だからそれはやはり6年間の耐用年数があれば、その6年間故障せんように大体1年に1回定期点検、これは専門の業者がやってるわけですけども、ただその費用が高いんです意外と。

○黒田市民協働課担当係長 そうですね。

○宮本委員 だからそれを役所で持つか、町会が持つか振興会が持つか、それはま

た話し合いだけで。大概今まで聞いたところ、地域が負担ですね。アメリカ村で問題になったのも地域が負担して地域がその財政に耐えられないということでやめたということになったと聞いてますけど、それだけ費用がかかるんです。しかし付けたんだから故障していたら付けてても意味がないわけですから、それにお金が絡む、これは致し方ないと思う。

○田中部会長　　どうですか、もう時間が迫ってます。最後もう意見ひとつあれば言っていたらいい。なければ次の議題に行ってもよろしいか。

　　そしたら議題3の委員評価シートアンケート結果について説明お願いしたいと思えます。

○前田市民協働課担当係長　　それでは資料3をご覧くださいませ。資料3は本日も机の上に置かせていただいております、こういう表の資料でございます。右肩に資料3と打ってあります。こちらにつきましては、平成29年度鶴見区運営方針に記載している具体的な取組みにつきまして、委員の皆様から直接評価をしていただきましたものを集約した資料でございます。防災・防犯部会が所管する経営課題に対する委員評価の結果につきまして、簡単にご説明いたしたいと思っております。

　　それでは経営課題4の安全なまちづくりにつきまして、経営課題4-1街頭犯罪交通事故の少ないまちづくりでは、安全で住みやすいまちと感じている区民を増やすという状態をめざして具体的取組みを行った結果、おおむねその取組みが有効であるとの評価をいただいております。また自由記述欄にいただいたご意見で防犯に関しましては、「防犯プレートは各地域まだ不足しているので増やして欲しい」というご意見をいただいております。地域の要望を鑑みながら必要枚数を作成して参りたいと思っております。また交通安全に関しましては、「各世代への交通安全教室や自転車の運転マナーアップキャンペーンは重要なので、より一層イベント名称をわかりやすくするなどの工夫をしながら継続していただきたい」というご意見をいただいております。今年度実施いたしますスケアードストレート学習の周知は、スタントマンによる交通安

全教室をするなど工夫いたしまして、行って参ります。

経営課題4-2災害に強いまちづくりにおきましては、さまざまな災害に対する区全体の防災対策が進んでいると感じる区民の割合を増やすということをめざして取り組んだ具体的取組みは、おおむね有効であるとの評価をいただいております。また自由記述欄にいただいたご意見では、「自助、共助に対する取組みは非常に大切なことから、より多くの区民に対して地域や区が行う防災に関する啓発を知ってもらい、災害に強いまちづくりにつなげて欲しい」というご意見をいただいております。今年度実施しております地域での避難所開設運営訓練では、地域災害対策本部や避難所開設、避難所運営委員会に対しまして、実災害を想定した状況付与を行いながら訓練を行っております。また先ほどのご説明のとおり、安全・安心フェスタはさまざまな年齢層の方にお越しいただけるような工夫を行いまして、消防署と共催で消防署の展示や小学生の図画展を同時に行うなどしております。当部会が所管いたします経営課題以外の評価につきましては、後ほどご覧いただきますでしょうか。

以上でございます。

○田中部会長　ただいまの説明がございましたけど、何かご意見を確認したいこと、ございませんか。今の説明はちょっと飛び飛びになってたんですね、この資料で。

○前田市民協働課担当係長　資料3の後ろに委員評価シートの自由意見というのがございまして、こちらも抜粋させていただいております。

○田中部会長　これですね。

○前田市民協働課担当係長　はい、申しわけありません。

○田中部会長　これと合わせて読んでいただいて。どうですか何か、ちょっと広過ぎますね今、ぱっとは難しい。あの区役所はよくやっていただいていると思いますよ、本当に。私もそういうイベントとかフェスタ、時々のもらせてもらうんですけども、本当に皆さん熱心に。だんだん動員力も増えてきたんじゃないかな、やっぱり2つのイベントをうまくコラボレーションして、2つを1つにして、そういう工夫をして集

客力を上げていくとかいろいろそういう工夫をしておられるのはずっと感じます。さっきの話の続きになったらいかんけど、年齢層というかそういう階層ごとに、そういう共通の教室というんですかやっておられると。幼稚園から老人まで、そういうのもなかなかいいと思います。さっき西口委員が親が悪いことをしたら子どもはその背中を見て育ってるんやから、また悪いことをする、そういう考え方もありますけど、実は幼稚園児が交通安全のルールを覚えて、この親が赤信号で渡ろうとしたらママ渡ったらいかんよと、幼稚園でこんなふうに教えられたよ、逆に子どもから親が叱られると、そういうこともあるわけで、実際そういうことですよ。小学生、中学生になったらわからない、小学生はそうですよ、叱ってますよ、ママをね。だからあの子らは1回教えられたことはやっぱりそういうこと覚えてたら守る。だから赤信号渡ったらいかん。

どうですか皆さん、ここまで来てちょっとかたい話ばかりで汲々してるんですけど、もう少し、もうちょっと時間ありますけど。

○岡出委員 大分前の話なんですけど、避難所開設、例えばさっき9時にしなさいとありますよね。これ実際に受ける側のメンバーは9時に出たらあきませんよね。それはどれぐらい前とか、何か決まってるんですかね。まだ開設訓練をやってないから何とも言われないうんですけども、9時に避難してくださいという形が出るわけでしょう、発令が。実際にはそれより前に行って安全かどうかの確認とか準備が必要だと思うんですよ、そんなんどう考えてはるのかな。

○前田市民協働課担当係長 確かに避難所を実際にその時間から開設するというのは、ある程度リードタイムが取れる台風のとときとか風水害の場合はそういう形で、何時から開設しますということは事前にわかるんですけれども、その場合はやっぱり事前に1時間なら1時間と決めて、まだ実際にはその辺は決めておりませんが、職員は9時開設に向けて今回役所をちょっと早めに出てもらって、鍵をあけて中で9時には開設ができるような準備を行って、ここを出発しております。地震の場合はそ

んなことを言っておられませんので、そういうリードタイムもございませんので、何時に行っておくというのはもちろんないわけなんですけれども、今回のような風水害の場合はある程度予想がつきますので、何時から開設するというのであればそれにめがけて準備をしていけばいいかなと考えております。

○松原委員 あの場合、今年度は高槻とか茨木で地震とか被害があって避難所開設された、ということがあって、避難所を今度閉じたらまたすぐに次が来て、ちょっと大変そうなニュースを見たりしたんですけど、そういった市町村の職員の方にヒアリングするとか、そういった試みというのはなさっているんですか。今後の鶴見区で何かあったときに対応できるように、近くの市町村の職員の方にこういったときはどうされたんですかとか、どういったことが困ったんですかとか、何か具体的なことをやっぱり聞かないと、先ほど机の上でも大事だとはもちろん思うんですけど、経験された方のお話を聞くことも大事なのかなって思いました。

○前田市民協働課担当係長 そうですね、区役所が行くというんじゃなくて、大阪市に危機管理室というのがございますので、危機管理室からそういった自治体の方にはヒアリング等行いますが、まだあちらのほうは落ちついておられませんので、恐らくまだそこまではできていないと思うんですが、2年前の熊本地震のときに大阪市からも実際に応援職員を派遣して何名かは区役所からも行っております。向こうの自治体の職員からも聞き取りをしたり、そういった意見を参考にしながらいろいろマニュアルの改定などを行っております。今回まだ北部地震の分につきましては、まだ具体的には聞いておりませんが、今後落ちついてくればそういった形で反映できることになってくるかと思っております。

○田中部会長 全体を見回してみても。

○前田市民協働課担当係長 すみません、資料4の報告が申しわけありません。

区政会議に関するアンケートの集計というところで資料4、お手元でございます分を見ていただけますでしょうか。円グラフで区政会議案件の集計、右肩に資料4と書

かれてあります書類でございます。これにつきましても本日配付の資料でございます。

それでは区政会議に関するアンケート結果でございますが、まず設問1としまして、区役所と委員との間で活発な意見交換がなされていると思いますかとの問いに対しまして、ア. 思う、イ. やや思う、を合わせまして73%となっております。次に設問2でございますが、活発な意見交換に向けましてどのような課題があるかとの問いに対しまして、複数回答可でございますが最も多いのがウの区の現状や行政の仕組みなどについて知識不足15件、次に多いのがイの資料が多過ぎるまたはわかりにくい12件との結果でございます。次の設問3でございますが、課題改善を図るためにどのような取り組みや工夫が必要であると思いますかとの問いに対しまして、区役所側の説明が総花的にならないような、ポイントを絞った説明でよいのではと思う、というご意見や、区の運営方針をわかりやすく説明するため会議資料の工夫というご意見がございました。次の設問4では、区政会議への意見や要望などについて適切にフィードバックが行われていると思いますかとの問いに対しまして、ア. 思う、イ. やや思うを合わせまして69%となっております。その理由といたしまして、区政会議での意見が実際に反映されているのを実体験している、また要望におきまして遠からず答えていただいていると思う、というご意見がある反面、フィードバックがどのように行われているかよくわからないや、フィードバックは行われているが適切かどうかまではわからない、案件によっては事後すぐにフィードバックすべきこともあると思う、というご意見がございました。その他自由記述といたしまして、アンケート結果はパーセントのみではなくて具体的な数字が欲しいというご意見や、区民の1人として積極的に協力させていただきたいと感じましたというご意見がございました。

説明は以上でございます。

○田中部会長 どうもありがとうございます。今の説明で何か確認とか言いたいことございませんか。

○宮本委員 区政会議のアンケートはよく理解できたんですけど、この資料3の評

評価シートのアンケートが、全分野にわたって難しい設問があって私自身は専門以外は苦痛やったんです実は。恐らくほかの方も苦痛やと思われてる方もおられると思いますが、まあ全部理解されてる方もおられると思いますけどね。だから全部専門外の分まで出されるとわからないところがみんな中間ぐらいに丸をつけるしかない。そうすると集計した結果は不正確なのが出てくるんじゃないかと思いますんで、次はこの評価シートをできたら専門分野別に分けていただいたら助かるんですけど。多分答えるのに難儀されたと思います。

○西口副部長 相当精通してないと。

○奥本政策推進担当課長 区政会議のアンケート集計につきましては、これは統一様式という形になってるんですけど、おっしゃられた評価シートにつきましては、「思う」から「わからない」まで5つありまして、「わからない」を選択していただきますと、この平均点のところには入らないという形になります。ですから、「思う」から「思わない」までは4点から1点という形にしまして、それを計算して平均点を出しています。結果、3点以上がおおむねできているという評価をさせていただきます。

○宮本委員 無理に専門外のことを尋ねるよりも、専門部門は専門部門でこの評価シートをされたほうがいいんじゃないですかね。

○奥本政策推進担当課長 基本的には所管のところについては主に答えていただきたいと思っております、全体会議では説明させていただいてますけれども、所管の部会ではない方につきましては、わからないという形でもいいかなと思ってまして、そういう形で評価をしていただければと思っています。

○田中部会長 全体的に見たら3以上と言われたから、安全に住みやすいまちと感じていると思うという人がおられるんやね。大体3以上か。区役所の皆さんがよくやっていたらいいんじゃないかなと思います。

これで一応、何か皆さん、まだ何かありますか。

○前田市民協働課担当係長　あのこちらからの議題といたしましては以上でございます。

○田中部会長　もう時間が迫ってるんですけど最後に皆さん何かありますか。皆さん一言、何かあったら言っていただけたらありがたいですけどね。あの全体会議では発言するといっても、さっきの話やないけど多岐にわたってますんで、我々は防災・防犯部会だから、ここの意見のほうがいやすいね、全体会議ではなかなか言いにくいから。何か、どうですか。

○西口副部長　あの全体を通してやっぱり、わかってるよりわかってないところが多いかな、私自身の問題なんですけれども、かなりもうちょっとわかるように勉強しなきゃいけない。先ほど発電機の件ですが、ああいうのも聞いてたと思うんですが記憶にない、そこら辺がどうなってるかということをやはりある程度勉強してからまた質問に答えなくてはいけないんじゃないかなと思います。全体的に言えば、本当によくアンケートもとられていますし、だんだんその、私も2期目なんですけど難しくなってきましたよね、答えることが。やはりそこまで大分やっぱり苦労されてるんじゃないかなという感想は持っております。だからどこまでの意見を反映していただけるのか、もっと最初もぼやっとしたものがだんだん、役所としては明確化したい気持ちがよく表れているんじゃないかと思えます。

○田中部会長　会議に出てて思うのはやっぱり、区役所としてできることとできないことはあると思うし、それはできないと言えないことがつらいですね。

○西口副部長　確かに区別があるのはわかっています。でもそういう違う角度から何とかそういうことをやられないかな。私もどこに言っていいかわからない、わからないからこういう的を外れたようなことになってしまうんですけども、それに対してのマナーアップとかそういうのをどうすればいいかなと逆に教えていただきたい。それやったら。確かに私の言ったことは、役所さんとは違った方向で言いましたけども、要はマナーアップするにはどうすればいいんやということをもっとわかっていた

だいて、かつどうすればいいかというのをお互い工夫していく1つの例として言わせていただいただけで、その点はちょっとお互いに考えていかなければいけないんじゃないかな。確かに極端な、免許制度にしたらどないやとかいう極端なことを言って役所外、圏外の話になっちゃったんですけども、気持ちだけわかってください。

○前田市民協働課担当係長 はい、すみません。

○田中部会長 松原さんどうですか。難しい話ばっかしで。

○西村委員 この間、開設したときに、備蓄倉庫の中をラジオの乾電池を探しに行っただけです、液漏れで全部使えません。もう乾電池は時間たったら液漏れを起こすんです。乾電池、ほとんど使えませんでした。

○前田市民協働課担当係長 今現在、乾電池とかの消耗品につきましては、地域で補充交換等をお願いしております、大変恐縮ではございますが、申しわけありませんがよろしくお願いたしたい。

○西村委員 そうですか、はい。

○田中部会長 そういうざっくばらんな話で、いいんじゃないですか。前田さん、よく言いましたね。オブラートで包んだ答えが多いんやけど。

時間にちょうどなりましたけどこれでよろしいですね。

○前田市民協働課担当係長 最後にこちらのほうから連絡事項がございまして、お伝えさせていただきたいと思っております。

本日は貴重なお時間をいただきまして本当にありがとうございました。ご意見もたくさんいただきました、ありがとうございます。最後に次回の会議の予定でございまして、第2回全体会を11月下旬ごろに開催させていただきます。全体会では平成31年度の鶴見区運営方針案につきまして広くご意見を賜りたいと考えておりますので、お忙しいとは存じますがどうぞよろしくお願いたします。全体会の日程調整につきましてはまた改めて調整させていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

事務局からは以上でございます。

○田中部会長　それではこれで鶴見区区政会議第2回防災・防犯部会を閉会したいと思います。どうもありがとうございました。

閉会　20時53分